

平成 29 年度「サマーセミナーIN しらぬか」を開催しました。

本セミナーは、本校及び近隣の特別支援教育に携わる教職員の知識、技能など専門性の向上をねらうことを目的に開催しています。今年度は8月1日（火）に、東京都立光明学園主任教諭の達直美先生を講師に迎え、「重複障害のある子どもたちのキャリア教育について～子どもたちの可能性を広げるために～」をテーマとした講演会を開催いたしました。本校の教職員の他、釧路管内を中心とした小・中学校、高等学校、事業所などから40名を超える参加がありました。

達先生は最初に、「学齢期の12年間は子どもの人格形成にとって大事な時間であり、子どもたちの今、そして将来をいかに充実させるべきかを考えてきた。」と述べられ、キャリア教育について以下の内容を中心に、実践例を交えながらわかりやすく説明していただきました。

- ・本来、キャリア教育には障害の軽重がなく、障害の重い子どもたちにも、そこに存在しているだけで、周囲の人に影響を与えているという役割をもっている。教職員はその子どもの今の行動から意思を読み取り、育成（competency）することを考えなくてはならない。
- ・何故、何のための学びなのか、その学びが将来のどのような力につながるのかを考える視点で、意図的に授業づくりを考えていくことが大事である。
- ・「障害が重い＝できない」という思考を払拭し、全ての子どもたちは思いや願いをもっていることを念頭に、私たちは、子どもたちの思いに寄り添うことが必要である。
- ・個別の教育支援計画の中で子ども本人の願いがしっかり位置づけられ、それを基に個別の指導計画や移行支援計画の目標が具体的に設定されていることが大事である。子どもの願いを導くために ICF や PATH などのツールを利用することが有効である。
- ・今までの実践では（三重大学教育学部附属特別支援学校）、簡易版 PATH を生徒・教員・保護者で計画した。生徒が自分で目標を設定し、教室に「夢の木」として、幹や枝に目標やできたことを書いた葉を貼って掲示し、目標達成へ向かう経過の「見える化」に取り組んだ。その実践を積み重ねて、最終的に PATH を生徒自身が作成できるという成果につながった。現在、光明学園中学部の知的代替のグループでもその実践をしており、生徒自身が夢の実現のため今の自分の目標（課題）をわかって動くことが生徒自身の力の育成につながると考えている。

また、後半には「日々の授業改善に関する課題」をテーマに、ワークショップ形式の演習を行い、短時間に効率よく課題の焦点化と改善策をまとめ、共通理解を図る手法について学びました。最後に達先生からは、「学校課題の改善に短期、中期、長期で目標を立てていくこと、様々な会議を有効に使うこと、時間が短い中でいかにシンプルに短時間に情報共有をすることができるかが大事である。そのためには、笑顔で、ほめあうことができる、互いを尊重しあえるチームワークが大切である。」というアドバイスをいただきました。

参加者にとって、キャリア教育への理解が深まるとともに、学校に戻って直ぐに実践できそうな授業改善や学校課題の改善のヒントを、数多く受け取った研修会となりました。

